おひざのうえで

（副園長の子育ておうえん通信）（２０２１年３月）

せんりひじり幼稚園
副園長　安達かえで

「心のよりどころ」

いよいよ卒園・進級です。この一年を振り返って、とても長い一年でした。日数的には最初の自主登園があったので少し短い一年だったかと思いますが、いろいろなことがありすぎて、忘れることのできない一年になりました。

年長組は、やり残していた念願のお泊り保育を実施することができました。この時期に、幼稚園に泊まるお泊り保育は創立以来初めてです。この時期だからこそ、友達との信頼関係が深まっているので、みんなで話し合ったことを思いっきり楽しむことができたようです。シールラリー・全力かくれんぼ・全員なべなべそこぬけなど、やりたいことを全力で楽しんでいました。そして、卒園までの日々、一つ一つやりたいことを実行しく年長組です。昨日は、部屋をくまなく掃除して「あたらしいすみれ組のお友達が使うから」とおもちゃまでせっせと洗っていました。この張り切っている様子や、「やりたい」がみなぎっている様子を見ると、せんりひじり幼稚園が大切にしてきた「主体的な力」が育ち切った気がします。

先日は、ガンバの森で遊んでいて擦り傷ができた年少組の子を、お相手の年長組のお姉ちゃんが職員室に連れてきてくれました。「ごめんね、近くにいたのに。ほかの子の滑り台を見てたから助けてあげられなかってん。」と、言って心配そうにその子の顔を覗き込んでいました。そんな優しい言葉に感動しました。けがをしたけれどもそんな風に気にしてもらっている年少組の子は嬉しかったと思いますし、きっとその子が年長組になったときに、同じような状況になればそのような声をかけることができるかもしれません。子ども同士の信頼関係が深まり、安心して自己発揮できているのを見ると、このままずっとこの状態で保育できればいいのに・・・と思います。年長組の子どもは卒園しないでこのまま幼稚園で育ってほしいと思ってしまいます。

小学校のカリキュラムを考えると、幼稚園のように話し合いの時間を十分に確保したり継続的に活動を続けることは難しく「自分たちで決めたかったのに・・」ということも出てくるでしょう。でも、幼稚園で育った力は、将来の生きていく力に間違いなく繋がっていきます。

少し不安も出てくるでしょう。ランドセルの底に、幼稚園のカラー帽子を入れて登校したり、学校に行く服の下に幼稚園の通園ズボンをはいて行ったりする子がいると聞くと、胸が熱くなります。お守りのように幼稚園の物をどこかに忍ばせて、前を向いて頑張っている子どもたちに、「きっと大丈夫。ずっと応援しているからね。」のメッセージを送ります。

人は、新しい環境の中で、新たな人との関係性を築くために、状況をよく見て判断し、自分がどのように関わったらいいかを考えて試すという日々が始まります。人はそんなときにぐっと脳を働かせて状況を把握し考えます。人が育つには、ある程度の負荷も必要だということです。

春が来たら土を押し上げて地中から芽を出すチューリップと同じように、子どもたちの育ちが、埋没することなく、上に伸びていけるような環境を用意しなくてはいけません。その一つとして、卒園、進級、クラス替えがあるのだと思います。土の中に栄養があるように、幼稚園での数々の経験が土の中の栄養となって、子どもの豊かな育ちを支えていきます。そんな子どもたちをいつもでも応援していきますね。

ご意見や感想は　kaede@hijiri.ed.jp までどうぞ